

第64回 平成26年度

# 河北文化賞



公益財団法人 河北文化事業団



公益財団法人河北文化事業団理事長

# 河北文化賞について

## 一 力 雅 彦

河北文化賞は、東北の学術、芸術、体育、産業、社会活動の各部門で顕著な業績を挙げ、東北の発展のために尽力した個人、団体を顕彰しようと、河北新報社が昭和二十六年に創設いたしました。

地域の発展は、産業の振興を基盤としつつも、それを担う住民の安定的な生活、さらには文化、教育といった分野の充実も欠くことのできない大きな要素となります。河北新報社はいち早くそうした点に着目、東北という大きな視座に立ちながら、第一線でたゆまぬ活動を続ける個人、団体をたたえ、励まして参りました。

昭和三十年に事業主体を財団法人河北文化事業団（平成二十五年一月から公益財団法人）へと引き継ぎ、その後、東北放送、財団法人東北放送文化事業団（同年九月から公益財団法人）の参画を得て今日に至りました。東北の最も権威ある文化賞として歩み続け、今回の贈呈式が六十四回となります。

河北文化賞の創設から六十年目の平成二十三年三月十一日、東日本大震災が発生。宮城、岩手、福島の一帯を中心に、地震と大津波による未曾有の被害がもたらされました。

多くの人がかけがえのない生命・財産を奪われたあの日から、間もなく四年がたとうとしています。この間、特に甚大な被害を受けた沿岸地域では、復旧・復興への取り組みが国を挙げて続けられてきました。しかし、穏やかな暮らしを取り戻すための、抜本的な対策については立ち後れが目立ち、

震災が忘れ去られる「風化」や、原発事故の被災住民に対する言われのない「風評」を指摘する声も聞かれます。

こうした状況を打破して復旧・復興を軌道に乗せ、被災地を再生させるために、東北は心をひとつにしていかねばなりません。そして、何よりも手を取り合って前に進もうという東北全体としての強い決意が求められております。

河北文化賞は、受賞者各位のたゆまざる研鑽（さん）が東北の向上に貢献し、ひいてはわが国発展の礎石として結実しているとともに、今後の復興促進の一助になり得ると信じています。また、東北の文化やスポーツを支え続けてきた点も、被災された方々の内面に希望の灯をともし、再生への強い意志を持っていただくことにつながっていくであろう、と願っております。

河北新報は明治三十年一月十七日、古くは大和朝廷から「蝦夷（えぞ）」と蔑視され、下っては薩長による明治政府からも「賊軍」「山百文」と軽視された白河以北の振興をはかるうと、東北振興、不羈独立を社是に創刊されました。以来、高く掲げた一灯は、一貫して東北の人々を鼓舞し、勇気づけてきました。

河北文化事業団をはじめとする河北文化賞主宰団体は、この創刊の趣旨をよくかみしめながら、東北を愛し、発展させる立場で、引き続き優れた業績の発掘とその顕彰に力を尽くして参る所存です。

## 第六十四回河北文化賞受賞者とその業績

### 合金などの材料組織制御の基礎研究と東北企業との共同開発・製品化への功績

東北大学名誉教授 石 田 清 仁さん(68)

(推挙者 東北大学総長 里 見 進)

金属の組織を解析する研究を発展させ、多くの実用材料を生み出した。

ベースにあるのは、温度や組成、圧力で物質がどう変化するかを表す合金状態図の基礎研究だ。合金開発の「地図」に例えられる。「道なき道を作る地道な作業だが、予想もなかった化合物と出合う面白さがある」

企業などが材料開発に広く利用できるよう、状態図を基に物質特性のデータベースも構築した。

東北大大学院修了後、名古屋市に本社のある特殊鋼メーカーに勤めた。研究所に五年、工場に三年。「金属の作られ方、使われ方だけでなく、



合金の製品化にさまざまな企業と共に石田さんに尽力した

材料が生き物だと知った。現場経験が今に生きている」と振り返る。大学に戻って恩師の状態図研究を継ぐ

一方、材料創製の応用研究にも乗り出した。

削りやすい無鉛金属、最高水準硬度の鉄鋼、超耐熱合金などを次々開発。プリンターや自動車エンジンに使われている。

伸び縮みする形状記憶合金の「超弾性」に着目し、爪に挟み込むだけの巻き爪矯正器具を製品化したほか、強い揺れでも壊れにくい建築部材の研究も進める。

「鉄の神様」と呼ばれた東北大総長、故本多光太郎が提唱した大学の理念「研究第一主義」「実学尊重」を大切に守る。

「基礎研究の上に実学を展開し、世界トップクラスの研究成果を挙げて社会に貢献したい」

いしだ・きよひと 一九四六年仙台市生まれ。東北大大学院工学研究科修了。専門は金属材料。大同特殊鋼、東北大工学部助教を経て、九三年同大工学部教授、〇五〜一〇年同大大学院工学研究科教授。日本金属学会会長などを歴任。

# エルビウム光ファイバー増幅器の先駆的研究開発とそれを用いた光通信技術の高度化

東北大学電気通信研究所教授 中 沢 正 隆さん(62)

(推挙者 七十七銀行取締役頭取 氏家 照彦)

「いつでもどこでも誰とでも」を目指して新たな光伝送技術を確立し、

世界中で利用される通信システムを実現させた。

一九八九年、希少金属のエルビウムを添加した光ファイバーを半導体レーザーで活性化し、光信号を損失なく送る小型光増幅器の開発に世界で初めて成功した。

光通信技術は一気に加速、延長約九千キロの高速・大容量の太平洋横断ケーブルの敷設を可能にした。

当時、英、米の研究者もエルビウムを用いた増幅装置の実用化にのぎを削っていた。競争を制した陰には、複数の研究に力を注ぎ、それらを融合させようとする実直な姿勢があった。



大容量光通信を実現した光増幅器を手にする中沢さん

東北大電気通信研究所に赴任する際「研究所を光通信のメッカにしたい」と誓った。今も膨大な情報を

瞬時にやりとりするICT社会の発展に貢献し続ける。

日本が世界に誇る光通信の基礎研究。「黎明(れいめい)期の研究者が築いた基盤があつてこそ」と、光ファイバー発明者の西澤潤一氏ら多くの先達に感謝を忘れない。

情報通信の需要には果てがない。二十年後には千倍の容量が必要になるとの試算もある。関心は光通信と無線の融合など次のテーマに向く。

「山を登りきったと思ったら、また次がある。新しい技術の開発は果てしなく、無限の可能性がある」と瞳を輝かせた。

なかざわ・まさたか 一九五二年山梨県生まれ。東京工科大学院総合理工学研究科修了。専門は光通信、レーザー工学。米マサチューセッツ工科大などを経て二〇〇一年から現職。一〇〜一二年度東北大電気通信研究所所長。二三年日本学士院賞。

## 多年にわたり宮城県の芸術界の発展と文化芸術の向上に寄与

### 公益社団法人 宮城県芸術協会

(推挙者 宮城県知事 村 井 嘉 浩)

一九六四年に始めた宮城県芸術祭を中心に、宮城の文化芸術の礎を築いてきた。

特徴は在野精神にある。他県では分野別の団体単位での参加が多い中、「芸術は個人の問題」と理念を掲げ、個人参加を原則とした。会報「はなやま」創刊号の巻頭言で、当時の黒川利雄会長(故人)は「郷土の芸術文化の興隆のための奉仕者となること、それ自体が、名誉ある恩典なのである」と宣言した。

在野精神は協会設立の経緯と無縁ではない。六四年当時、東北で唯一未開催だった芸術祭の実現へ向け、文化人一三人が県芸術祭実施期成同志会を結成。しかし県が芸術祭への関与に消極的だったため、芸術協を設立した。

芸術祭は現在では宮城県



第51回宮城県芸術祭で披露された舞台「芸術ふれあい 広場パートⅣ～半世紀の精華～」=2014年10月

や仙台市、河北新報社などが主催に加わり、美術、書道、洋舞など展示、舞台とも多岐にわたる。二〇一二年には絵画、彫刻、写真の各公募展を開始。一四年には文芸作品を公募し、開かれた組織づくりと会員拡大に努める。一九九五年から社団法人韓国芸術文化団体総連合会大邱広域市連合会と展示や舞台の交流を続ける。

部門間の交流も盛ん。その蓄積は昨年の芸術祭で六部門が参加した舞台に結実した。大場尚文理理事長は「気高い志があったから、ぶれずにやってこられた。高齢化など課題もあるが、魅力ある組織にし、次世代につなげたい」と決意を語る。

宮城県芸術協会 一九六四年五月設立。九二年に社団法人、二〇一三年から公益社団法人。絵画、彫刻、工芸、書道、華道、洋楽、邦楽、演劇、文芸、舞踊、茶道、写真の一二部で構成。一四年二月一日現在、正会員二二七人、賛助会員二三人。

## 庄内地域の伝統文化、芸術の保護・継承と地域産業振興への寄与

平田牧場取締役会長 東北公益文科大学理事長 新 田 嘉 一 さん (81)

(推挙者 東北公益文科大学学長 吉 村 昇)

江戸時代、北前船交易の拠点として栄えた港町酒田。往時の栄華を伝える文化財の保存と活用に力を注いできた。

二〇〇〇年に老舗料亭「相馬屋」を買い取り、観光施設「相馬楼」として再生させた。華やかな料亭文化の雰囲気の中で「酒田舞妓（まいこ）」の芸を楽しめる施設は、〇九年の仏ミシユランの観光案内で紹介され、庄内地方を代表する観光拠点になっている。

経営する食肉大手「平田牧場」の業績に影響しかねない投資に、周囲の反対は多かったというが「地域文化は、そこに住む人々の手で残してこそ意味があり、地域の力になる」と押し通した。

〇六年には、東京の不動産業者による開発計画を止めようと明治期



伝統文化や芸術の素晴らしさについて語る新田さん

の庭園「寄暢亭」を私財を投じて入手。市美術館に寄付した洋画家森田茂のコレクションは、同館の目玉と

して県内外から多くのファンを呼び集める。

文化財保存に情熱を傾ける原点は、一一歳で迎えた敗戦の記憶にある。生家は農地解放で土地を失い、大切にしていた愛馬は進駐軍に接収された。

「いつか無くなる金や財産ではなく、何百年も残る文化や芸術をこの地域にとどめようと思いついてきた」と振り返る。

〇九年に東北公益文科大（酒田市）理事長に就任し、視線は次の世代へ向く。「東北をより豊かにするために、人材という財産を生み出したい」

にった・かいち 一九三三年山形県平田町（現酒田市）生まれ。庄内農高卒。六七年平田牧場を設立し、〇六年から取締役会長。中国や台湾との交易・観光促進など環日本海交流にも尽力し、中国黒竜江省や台湾政府からの表彰も多数。

# ソチ冬季五輪フィギュアスケート男子シングルで金メダル

全日本空輪 羽 生 結 弦さん(20)

（推挙者 日本スケート連盟会長 橋本聖子）  
（南光学園東北高等学校校長 五十嵐一彌）

ジャンプを武器に、フィギュアスケートの日本男子として初めて五輪の頂点に立った。約一カ月後の世界選手権も初制覇。二〇一三年二月のグランプリファイナルも含む三冠の偉業を達成した。

同競技での日本人の五輪覇者は、同じ宮城・東北高出身で〇六年のトリノ大会を制した女子の荒川静香さん以来二人目。地元仙台市の中心部では四月に凱旋（がいせん）パレードがあり、市民ら約九万二千人が一九歳の快挙を祝福した。

五輪ではショートプログラムで4回転トゥーループ、トリプルアクセル、3回転のコンビネーションと全ジャンプを鮮やかに決めて101・



ソチ冬季五輪のフリー演技で力強い滑りを披露した羽生選手

45点の世界歴代最高点を記録。フリーも、後半の粘りで首位の座を守った。  
東日本大震災で練習場所

だった仙台市泉区のリンクが損壊。リンクが使えない間、アイスショーで実戦感覚を保った。  
三年前からはカナダのブライアン・オーサー・コーチの下で技を磨き、着実にレベルアップ。今季はグランプリ（GP）シリーズの中国杯（十一月）で負傷したものの、一二月のGPファイナルで日本人初の二連覇を果たした。  
「常に多くの人に支えられ、結果を出すことができた」とこれまでの競技生活を振り返りつつ、被災地出身の選手として「被災地の皆さんと一緒に前を向き、進んでいきたい」と力強く決意を語った。

はにゆう・ゆづる一九九四年仙台市生まれ。宮城・東北高卒。四歳で競技を始め、二〇一〇年世界ジュニア選手権優勝。一四年二月のソチ冬季五輪ではSP史上初の100点超えて日本男子初の金メダル獲得。早大在学中。ANA所属。





## 河北文化賞規定

- 第一条 河北文化賞は東北地方の文化の向上、産業の興隆等について貢献顕著な個人もしくは団体に贈る
- 第二条 河北文化賞は学術、芸術、体育、産業、社会活動の五部門とする
- 第三条 河北文化賞の審査年度は前年十一月三日に始まり当年十一月二日に終わるものとする。ただし緊急性のあるものはこの限りではない
- 第四条 河北文化賞の審査は公益財団法人河北文化事業団理事長の指名する委員会において決定する
- 第五条 河北文化賞は毎年一月一日の河北新報にその前年度分を発表し一月十七日に贈呈式を行う
- 第六条 河北文化賞は本賞を賞牌とし、副賞として別途定める賞金を添えて贈呈する
- 第七条 同一業績に対し他の著名賞を受けたもの及び河北文化賞を一度受けたものは原則として除く

### 河北文化賞

(賞牌)

表紙の写真は故東京芸術大学教授菊地一雄氏の制作による「河北文化賞(賞牌)」で、発展途上にある東北の産業文化にふさわしく、広く文化を象徴する女性に東北の大自然を象徴する山、東北の発展を象徴する産物を配し、希望と野心に満ちた意匠を織り込んである。

記念講演

第六十四回講演

三陸鉄道 復旧・

復興の取り組み

三陸鉄道株式会社  
代表取締役社長



望月 正彦氏  
もちつき まさひこ

一九五二年生まれ。山梨県出身。一九七四年山形大学人文学部(法律)卒業後、岩手県入庁。久慈市助役、盛岡地方振興局長を歴任し、二〇一〇年六月から現職。二〇一一年三月一日の東日本大震災時には、被災して不通となった三陸鉄道全線のうち、一部区間での運行を発生五日後に再開、被災者の足の確保に努めた。その後、国、地元自治体に協力を働き掛けながら運転再開区間を徐々に伸ばし、全線を二〇一四年四月に復旧させた。

第1回 東北大学法学部長 中川善之助	第13回 「不安と治療および救い」 東北大学長 石津 照壘	第24回 「都市開発と文化」 東北大学教授 佐々木嘉彦
第2回 東北大学名誉教授 熊谷 岱藏	第14回 「科学の進歩と疾病の変貌」 東北大学名誉教授 海老名敏明	第25回 「考えて作る楽しみ」 東北大学教授 酒井 高男
第3回 「文化について」 東北大学学長 高橋 里美	第15回 「宇宙開発の現状」 東北大学教授 加藤 愛雄	第26回 「近世の北方問題と林子平」 文学博士 平 重道
第4回 「古代の東北文化」 文学博士 山田 孝雄	第16回 「明治維新と仙台」 宮城県民会館館長 佐々 久	第27回 「道」 瑞巖寺住職 加藤 隆芳
第5回 「科学者の夢」 東北大学電気通信研究所長 渡辺 寧	第17回 「戊辰の役考」 作家 大池 唯雄	第28回 「地震と地盤」 東北大学名誉教授 奥津 春生
第6回 「天才と寿命」 東北大学名誉教授 宮城音五郎	第18回 「自然保護と観光開発」 東北大学教授 加藤陸奥雄	第29回 「星の一生」 仙台市天文台台長 小坂由須人
第7回 「考古学上から見た古代の東北開発」 東北大学教授 伊東 信雄	第19回 「史実からみた伊達騒動」 宮城県文化財専門委員 三原 良吉	第30回 「脳卒中の話」 東北大学教授 鈴木 二郎
第8回 「芳香族の化学について」 東北大学教授 野副 鉄男	第20回 「倫理観の今昔」 東北大学名誉教授 吉田 賢抗	第31回 「半導体と未来社会」 東北大学教授 西澤 潤一
第9回 「ストレス学説について」 東北大学学長 黒川 利雄	第21回 「政宗と常長」 東北大学教授 高橋 富雄	第32回 「ガンの免疫療法」 東北大学教授 石田名香雄
第10回 「栄養と体力並びに寿命」 東北大学農学部学長 有山 恒	第22回 「宝石あれこれ」 東北大学教授 砂川 一郎	第33回 「食物成分の不可思議」 東北大学教授 木村 修一
第11回 「脳と文化」 東北大学医学部長 本川 弘一	第23回 「エネルギーの現状と将来」 東北電力株式会社常務取締役 中川理一郎	第34回 「セラミック エージの夜明け」 東北大学名誉教授 梅屋 薫
第12回 「安楽死の問題」 東北大学名誉教授 木村 亀二		第35回 「東北日本の地震活動・地殻変動の特性」 東北大学教授 高木 章雄

<p>第36回 「キリスト教文化と日本文化」 東北学院大学宗教学部長 小笠原政敏 宮城学院学院長 早坂 禮吾 「文学にみる女性像」 致道博物館名誉館長 酒井 忠明</p> <p>第37回 「戌辰の役と庄内藩」 東北福祉大学教授 芹澤 長介</p> <p>第38回 「富沢遺跡などに見る東北の古代」 東北大学工学部教授 木村 正行</p> <p>第39回 「人工知能は人間の頭脳にどこまで迫れるか」 東北大学大学院 増本 健</p> <p>第40回 「21世紀の新素材」 「東北の国際化を担う空港整備」 運輸省仙台空港長 増子 久弥</p> <p>第41回 「遣欧使節 支倉常長の実相」 東北大学文学部長 渡辺 信夫</p> <p>第43回 「奥州平泉文化の特質」 中尊寺貫主 千田 孝信</p> <p>第44回 「三内丸山遺跡に見る東北の縄文文化」 弘前大学教授 村越 潔</p>	<p>第45回 「思い出の土俵生活」 第二十八代立行司 後藤 悟</p> <p>第46回 「東北の百年」 東北大学名誉教授 高橋 富雄</p> <p>第47回 「国際海洋年と地球温暖化」 東北大学教授 田中 正之</p> <p>第48回 「東北人のこころ」 日銀副総裁 藤原 作弥</p> <p>第49回 「多賀城から鎌倉へ」 東北歴史博物館長 岡田 茂弘</p> <p>第50回 「21世紀の学都仙台」 東北大学総長 阿部 博之</p> <p>第51回 「自然界の不思議―右の世界、左の世界―」 東京大学教授 黒田 玲子</p> <p>第52回 「蝦夷から学ぶリーダー像」 作家 三好 京三</p> <p>第53回 「宮城県沖地震は本当に来るのか」 東北大学大学院教授 長谷川 昭</p> <p>第54回 「近未来社会とロボット」 東北大学大学院情報科学研究科教授 中野 栄二</p>	<p>第55回 「衝撃波の出ない超音速旅客機を目指して」 防衛庁技術研究本部第三研究室主任研究官 楠瀬 一洋 前東北大学C O Eプログラム招聘客員教授</p> <p>第56回 「松島瑞巖寺と伊達政宗―造営四百年を前に―」 文化史作家・濱田 直嗣 前仙台市博物館長</p> <p>第57回 「アクアマリンとシラカンス最前線」 アクアマリンふくしま館長 安部 義孝</p> <p>第58回 「東北弁とシエイクスピア」 東北学院大学教授 演出家 下館 和巳</p> <p>第59回 「発酵王国・東北の食文化」 東京農業大学名誉教授 農学博士 小泉 武夫</p> <p>第60回 「脳を鍛える」 東北大学大学院加齢医学研究所教授 川島 隆太</p> <p>第61回 「平泉の世界遺産登録の意義―東北の復興に向けて―」 東北芸術工科大学歴史遺産学科教授 入間田宣夫</p> <p>第62回 「歴史学と災害科学をつなぐ」 東北大学災害科学国際研究所長 教授 平川 新</p> <p>第63回 「Respect Each Other」 株式会社案天野球団代表取締役社長 立花 陽三</p>
--	---	--

# 河北文化賞受賞者

Ⅱ 年度順 Ⅱ

<p>第一回受賞者 (昭和二十六年)</p> <p>音楽教育と作曲 仙台高校教諭 海鋒 義美</p> <p>東北民家建築の研究と指導 東北大学 工学部教授 小倉 強</p> <p>超短波の研究とその実用化 東北大学 工学部教授 宇田新太郎</p> <p>水田裏作の協同化とその普及 大河原裏作 農協副組合長 太田麻之助</p> <p>中、高等学校漕艇界における稀有の優位と不断の精進 南光学園 東北高校漕艇部</p>	<p>第二回受賞者 (昭和二十七年)</p> <p>「国民体力と食」並びに「学童教育」に関する研究と指導 東北大学 医学部教授 近藤 正二</p> <p>ジャガイモの育種研究と品種改良の実績 東北農芸試験場 栽培第二部長 田口 啓彦</p> <p>世界選手権を獲得、卓球界の復興に寄与 青森市在住 佐藤 博治</p> <p>津波及び津波予報の実際的研究 仙台管区氣象台 (並びに元台長故森田稔氏)</p> <p>只見川電源開発の基礎調査を完遂 只見川調査所関係所員</p>	<p>第三回受賞者 (昭和二十八年)</p> <p>極超短波時分割多重通信の研究とその実用化 東北大学 工学部教授 永井 健三</p> <p>わが国最高水準にある本荘高校漕艇部に対する不屈不撓の指導 秋田県本荘 高校教諭 作左部 忠</p> <p>東北柔道界発展に対する寄与 柔道八段範士 高橋喜三郎</p> <p>東北の稲作冷害の研究と耐冷性品種の育成 青森県農事 試験場長 田中 稔</p> <p>製鉄用大型傘歯車の修理並びにその国産化 富士製鉄釜石製鉄所工務部 並びに東北大学工学部成瀬研究室</p>	<p>第四回受賞者 (昭和二十九年)</p> <p>野兔病に関し親子二代にわたる研究 大原綜合病院長 大原嘗一郎</p> <p>東北の民謡の研究とその採譜 民謡研究者・作曲家 武田忠一郎</p> <p>東北体操界の発展に寄与 秋田県体操協会長 太田口政治</p> <p>公衆衛生事業に顕著な業績をあげ学術的社会的に貢献 宮城県角田保健所長 小島 武雄</p> <p>日本海北部沿岸地方における砂防造林法の体系化とその業績 前酒田営林署長 富樫兼治郎</p>
--	--	---	--

第五回受賞者

(昭和三十年度)

「拡声器」「室内音響」「騒音防止」に関する研究と指導

東北大学工学部教授 二村 忠元

日本語の実験音響学的研究とその成果

東北大学名誉教授 土居 光知

多年にわたり俳句を指導し地方俳壇に寄与

俳 人 阿部みどり女

リンゴの栽培を改良指導し東北果樹産業界に寄与

青森県りんご協会理事 渋川伝次郎

山間辺地に「独立学園」を創立名利を離れて青年の育成に奉仕

キリスト教独立高等学園校長 鈴木 彌美

第十六回受賞者

(昭和三十一年度)

東北地方の古代文化に関する考古学的研究

東北大学教授 伊東 信雄

「日本化学総覧」を編集発行し科学産業に寄与

財団法人 日本化学研究会

東北重量界の発展に対する寄与

福島県重量協会会長 額賀 誠

広葉樹人絹バルブの工業化により、東北の未利用資源活用の道をひらく

東北バルブ取締役副社長 片山 知又

育児院の模範的経営と社会福祉事業に貢献

仙台キリスト教育児院院長 大坂 鷹司

婦人の地位向上と社会改善に寄与

山形県婦人連盟

六十余年にわたり東北の農事改良指導に尽力

国分農塾主 国分 謙吉

第七回受賞者

(昭和三十二年度)

鉄鋼資源の国内自給度を高め東北鉱山業界の発展に寄与

日鉄鉱業若鉱業所長 今井 史郎

東北ラグビー界の発展に寄与

秋田ラグビー協会顧問 鎌田 徳治

超音波応用の研究、とくに魚群探知機の成功と実用化

東北大学教授 菊池 喜允

水稲優良品種「ササシグレ」を育成普及し食糧増産に寄与

宮城県立農業試験場古川分場

永年気温、水温、流量の監察を記録し、冷地地農業対策に寄与

長井市在住 渋谷 洪衛

第八回受賞者

(昭和三十三年度)

辺地教育に新しい指針を与え地域産業の振興に貢献

西川町立大井沢自然博物館

東北農山漁村生活の調査研究と「東北研究書庫」建設による業績

会津農林専門学校教諭 山口弥一郎

多年にわたり南部杜氏を育成し東北酒造界の発展に寄与

南部杜氏協会会長 藤村 徳三

東北地方のクル病予防と母子衛生育児知識の普及指導に献身

東北大学教授医学博士 佐野 保

「平頭モリ先」を発明・製作し日本捕鯨業の躍進に寄与

東京大学教授理学博士 平田 森三  
株式会社石巻製作所 専務取締役 仁科 利英

第九回受賞者

(昭和三十四年度)

カキ種苗の人工飼育とその産業への応用

東北大学教授  
理学博士 今井 丈夫

古印・金石字並びに郷土史料の保存刊行

盛岡市編集委員 太田孝太郎

民謡の価値を高く評価し、その復活、伝承、普及に尽くす

民謡普及  
桃水会会長 後藤 桃水

竿灯の伝統を生かし、妙技を發揮して観光東北の名を高む

秋田市竿灯会

永年歌道に精進、歌壇の隆盛に寄与

歌人 結城哀草果

第十回受賞者

(昭和三十五年度)

農業経営の具体的指導と農士の人材の育成に尽くす

宮城県立農学専攻 酒井 馨

わが国初の海底油田を発掘、東北鉱業界に新風を呼ぶ

石油資源開発株式会社  
秋 田 鉱 業 所

社会の法知識普及啓発と無料法律相談所など社会福祉事業に貢献

東北大学教授 中川善之助

郷土史の研究とその指導普及に尽くす

郷土家 三原 良吉

画期的な電気通信機器を製作し、通信事業界並びに東北の産業界に貢献

谷村株式会社新興製作所

第十一回受賞者

(昭和三十六年度)

由緒ある所蔵品を開放し地方の文化向上と社会教育振興に貢献

本間 美術館

ガラス長繊維についての新技術を確立し、繊維工業の伸長に貢献

日東紡績株式会社前福島工場長  
兼 繊維 研究所 所長  
富田 兼康

害虫学の体系を確立し実地指導により蚊・ハエ撲滅など環境衛生に尽力

東北大学教授 加藤陸奥雄

独特の版画芸術により素朴な郷土風俗を内外に紹介

創作版画家 勝平 得之

粘土礦物によるジークライト工業を成功させ東北の地下資源開発に寄与

ジークライト化学  
工業株式会社社長 吉岡寛太郎

卓越した探鉱技術により大鉱床を発見し東北地方の鉱業振興に寄与

同和鉱業株式会社 小坂鉱業所

全国的な各剣道大会で優秀な成績をあげ東北地方の体育を振興  
宮城県小牛田農林高校剣道部  
名子制度の研究など東北地方の社会経済史を確立  
岩手大学教授 森 嘉兵衛

第十二回受賞者

(昭和三十七年度)

金属分析化学の研究と指導にあたり東北金属工業界に寄与

東北大学教授 後藤 秀弘

テレビジョン共同受信の研究など東北の通信文化の向上に尽力

東北大学教授 佐藤利三郎

東北地方の産業経済史関係古文書史料を発掘、日本経済史学界に貢献

福島大学助教授 庄司吉之助

河北美術展及び日本美術院展を通じ東北画壇の興隆に尽くす

日本画家 莊司 福

古代正藍冷染法の継承とその保存に献身

染色工芸家 千葉あやの  
重要無形文化財

柔道世界選手権、全日本選手権を獲得、東北柔道界の向上に貢献

秋田県警部補 夏井 昇吉  
柔道七段

第十三回受賞者

(昭和三十八年度)

フエンスンク全国大会に優勝し  
東北女子体育界に寄与

宮城県浦高等学校生徒会  
体育部フエンスンク班

モニリア病防除体系を確立し  
リンゴ産業界に貢献

青森県りんご試験場長 木村 甚彌

平家琵琶を伝承してその保存に  
貢献

平家琵琶研究者 館山 甲午

本宮方式映画教室運動の実践に  
より地域文化向上に寄与

福島県本宮町立 本宮小学校

結晶方位の光学的決定法の完成  
と結晶定法位切断法の開発

東北大学金属材  
料研究所 教授 山本美喜雄

助教 渡辺 慈朗  
講師 佐々木栄一  
仙台工機株  
式会社社長 伊藤 定雄

第十四回受賞者

(昭和三十九年度)

秋田県農村の医療保健問題を  
調査研究しその解決に尽力

秋田県農村医学会

サンマの漁況予測方法を確立し  
東北水産業界に貢献

東北水産研究所  
資源第一研究室長 堀田 秀之

美術評論家として郷土の民俗芸能  
を発掘し地方文化の育成に寄与

美術評論家 森口 多里

仙台白菜など新品種の育成普及  
に貢献

渡辺採種場社長 渡辺 顯二

体操選手として長く活躍、東京  
オリンピックの団体優勝に寄与

東洋レヨン 小野 喬

第十五回受賞者

(昭和四十年年度)

民俗学を研究し東北の民間信仰  
史料を集大成

福島県立相馬女子  
高等学校教頭 岩崎 敏夫

地層の研究により油田など鉱産  
資源の開発探査に貢献

秋田大学  
鉱山学部教授 藤岡 一男

酸性河水による工作物腐食を究  
明し産学協同でその対策を確立

東北大学金属  
材料研究所教授 下平 三郎

東北電力株式会社  
常務取締役 若林 疆

東北剣道界の普及振興に献身

東北剣道運動顧問  
剣道八段 乳井 義輝

行政事務の合理化を實踐し「米  
沢方式」として全国に範を示す

米沢市長 吉池慶太郎

重量挙げ選手として活躍、東京  
オリンピックで銅メダルを獲得

法政大学生 一ノ関史郎

重量挙げ選手として活躍、東京  
オリンピックで銅メダルを獲得

法政大学生 大内 仁

全日本柔道選手権に三度優勝、  
東京オリンピックでも銀メダル  
を獲得

富士製鉄 神永 昭夫

東京オリンピックでも銀メダル  
を獲得

自衛隊体育学校  
三等陸曹 円谷 幸吉

東京オリンピックのマラソン、  
一万メートル競走に入賞、東北人の精  
神力を発揮

自衛隊体育学校  
三等陸尉 三宅 義信

重量挙げで次々に世界記録を更新、  
東京オリンピックで優勝

日本大学講師 遠藤 幸雄

体操選手として活躍、東京オ  
リンピックで個人総合優勝

日本大学講師 遠藤 幸雄

第十六回受賞者

(昭和四十一年度)

地下水学を体系づけ、温泉開発に応用

弘前大学教育学部教授 酒井重治郎

新農業を発明し、水銀毒の排除に成功

東北共同化学工業株式会社 副社長 百足 泰守

集団検診によるガン征圧体制の確立に尽力

宮城県対がん協会

多年レスリング界を指導、育成

日本アマチュア・レスリング協会 参与 笹原 正三

女子バドミントンで初の世界制覇

帝國石油株式会社 秋田鉱業所 横山 満子

第十七回受賞者

(昭和四十二年度)

緯度観測所の発展および東北の農業気象観測に貢献

水沢市名誉市長 池田 徹郎

石川啄木を調査研究して広く世に紹介

岩手芸術協会 会長 吉田 孤羊

東北地方に根ざした作曲および合唱音楽に寄与

宮城教育大学 教授 福井 文彦

考古学資料を発掘、保存し地方文化に寄与

毛利考古館 館長 毛利総七郎

身体不自由児療育の研究実践に尽力

宮城県更生育成医療整形外科 指定 医 協 議 会

第十八回受賞者

(昭和四十三年度)

八郎潟の干拓と社会変動を究明し、学会に寄与

秋田大学八郎潟研究委員会

深層地下構造を研究し、東北開発に貢献

東北大学教養部教授 奥津 春生

地域の音楽水準を高揚し、全日本合唱コンクール一般の部で優勝

FMC混声合唱団

東北ラグビー界に貢献し、国体で二年連続優勝

富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部

重量挙げ選手としてメキシコオリンピックで第三位

三宅 義行

第十九回受賞者

(昭和四十四年度)

集団検診方法の体系化による子宮がん防止に寄与

東北大学医学部教授 九嶋 勝司  
同 講師 野田起一郎

北上川洪水予報体系の確立とダム群統合管理の実践

東北地方建設局岩手工事事務所

全国高校ラグビー大会で十三回優勝

秋田県立秋田工業高等学校ラグビー部

世界女子バドミントン選手権大会で連続優勝に貢献

バドミントン選手 高橋とも子

生涯を社会福祉事業に捧げ施設を経営した功績

弘前愛成園理事長 佐々木寅治郎



第二十回受賞者

(昭和四十五年度)

鉱物資源、とくに黒鉱・砂鉄などの処理技術の開発

東北大学選鉱製錬研究所教授 和田 正美

萱江真澄の業績を中心とする東北庶民文化の研究

民俗学者 内田 武志

わが国初の松川地熱発電の開発

日本重化学工業松川地熱発電所代表 富岡 重憲

全国学校音楽合唱部門に優勝五回の偉業

仙台市立五橋中学校

世界卓球選手権大会で優勝

中京大学助手 小和田敏子

多年にわたる郷土の観光産業開発に献身

宮城県河南町旭山観光協会会長 斎藤壯次郎

第二十一回受賞者

(昭和四十六年度)

東北の無形文化財の研究とその保存に寄与

早稲田大学教授 本田 安次

郷土の民俗資料を収集しその保存に貢献

致道博物館

黒川能の伝統継承に尽力

黒川 能 座

画道六十年郷土画壇の発展に寄与

画家 菅野 廉

採苗・養殖技術の開発によりホタテ貝の栽培漁業を確立

青森県水産増殖センター

東北の自転車競技発展向上に尽力

宮城県アマチュア自転車競技連盟理事長 猪股 一二

第二十二回受賞者

(昭和四十七年度)

温泉医学の基本的研究と臨床的技術の開発

東北大学教授 杉山 尚

和算研究の資料発見、保存に貢献

理学博士 平山 諦

胃集団検診用間接粗野撮影装置を完成した功績

西山胃腸科院長 西山 正治

黒森歌舞伎の伝統継承に尽力  
救急医療体制の確立とその積極的活動

黒森 歌舞伎

レスリング選手としてミュンヘン・オリンピックで金メダルを獲得

レスリング選手 柳田 英明

ミュンヘン・オリンピックで男子バレーボール金メダル獲得に貢献

バレーボール選手 佐藤 哲夫

ミュンヘン・オリンピックで女子バレーボール銀メダル獲得に貢献

バレーボール選手 鳥影せい子

第二十三回受賞者

(昭和四十八年度)

アイバンク設立の基礎を築き世界的水準の角膜移植術を確立

岩手医科大学教授 今泉 亀撒

東北海区の魚類生態系を究明し栽培漁業を開発

東北大学農学部教授 畑中 正吉

全国学校音楽コンクールで連続五回の優勝

山形県立山形西高等学校合唱団

全日本剣道選手権大会で三度天皇杯を獲得

剣道七段 千葉 仁

十和田科学博物館の設立など広域観光開発と地方文化の向上に尽力

十和田開発株式会社社長 杉本 行雄

第二十四回受賞者

(昭和四十九年度)

肺ガンの早期発見と外科的療法  
の体系化

東北大学名誉教授 鈴木十賀志

延年の舞の伝統を継承

毛 越 寺

東北の歴史的な重要建造物修復に  
貢献

文化財建造物保存  
技術協会修理技師 藤島清太郎

リング優良品種「ふじ」の育成

農林省果樹試験場盛岡支場

リングふじ育成グループ

地域の社会福祉事業に献身

社会福祉法人  
藤澤母園理事長 渡辺 セツ

第二十五回受賞者

(昭和五十年年度)

キノコ類の成分解明など薬用  
植物学の開拓

東北大学薬学部部長 竹本 常松

多年洋画家として活躍、郷土  
美術界に寄与

洋画家 橋本八百一

白石紙の古漉法を継承

白石和紙工房 遠藤 忠雄

生産と生活の調和を図る地域  
農業計画の実践

岩手県住田町

農業総合指導協議会

水稻良品品種「トヨニシキ」  
「キヨニシキ」の育成

農林省東北農業試験場  
栽培第一部育成グループ

第二十六回受賞者

(昭和五十一年度)

東北の植物群集の研究と自然  
保護に貢献

東北学院大学教授 吉岡 邦二

日本画家として郷土画壇に寄与  
永年にわたり書道界の発展に尽力

書家 有井 凌雲

半生を辺地の診療に献身

医師 澤井 七郎

高校バスケットボールで二年  
連続三冠王

秋田県立能代工業高等学校  
バスケットボールチーム

モントリオール・オリンピック女子  
バレーボールで金メダルを獲得

バレーボール選手 荒木田裕子

モントリオール・オリンピック  
柔道で銅メダルを獲得

柔道選手 遠藤 純男

モントリオール・オリンピック  
レスリングで銅メダルを獲得

レスリング選手 菅原弥二郎

レスリング選手 工藤 章

第二十七回受賞者

(昭和五十一年度)

新非強磁性インバー合金を開発

東北大学名誉教授 斎藤 英夫

東北の地域開発と農業経済に  
貢献

東北大学名誉教授 木下 彰

仙台堤焼の伝統を継承

陶芸家 針生 嘉孝

地方演劇の振興に尽力

演劇評論家 大山 功

世界卓球選手権大会で優勝

青森県教育委員会主事 河野 満

<p>第二十八回受賞者 (昭和五十三年度)</p> <p>実践的地理学の研究で地域開発に貢献</p> <p>東北学院大学教授 宮川 善造</p> <p>東北における仏教文化史の研究</p> <p>岩手県文化財保護審議会委員 司東 真雄</p> <p>東北の音楽文化向上に寄与</p> <p>山形交響楽団</p> <p>日本刀鍛錬技術の伝統を継承</p> <p>刀 匠 法華三郎信房</p> <p>全国高校スキー大会で初の三連覇</p> <p>東奥義塾高等学校スキー部</p>	<p>第二十九回受賞者 (昭和五十四年度)</p> <p>文化財保護と郷土史研究に尽力</p> <p>仙豆美術館館長 佐々 久</p> <p>短歌の創作指導と研究にあげた功績</p> <p>東北福祉大学教授 扇畑 忠雄</p> <p>永年の創作活動で郷土画壇に寄与</p> <p>洋画家 渋谷榮太郎</p> <p>地域文化の向上と児童文化の振興に貢献</p> <p>児童文学者 須藤 克三</p> <p>こけし作り一筋に業界発展に尽くす</p> <p>こけし工人 佐藤 丑蔵</p> <p>志和型複合経営の確立で地域農業を振興</p> <p>岩手県志和農業協同組合</p>	<p>第三十回受賞者 (昭和五十五年度)</p> <p>東北地方の鉱物学研究にあげた業績</p> <p>東北大学連鉱製錬研究所教授 南部 松夫</p> <p>雪と雪崩の研究に尽力</p> <p>和賀岳を愛する会 会長 高橋 喜平</p> <p>豪雪地帯の林業技術に関する研究</p> <p>山形大学農学部 北村昌美教授研究グループ</p> <p>俳句などの芸術文化活動で地方文化の向上に寄与</p> <p>宮城県芸術協会理事長 永野 孫柳</p> <p>全日本学生選手権競漕大会で三連覇達成</p> <p>東北大学漕艇部</p>	<p>第三十一回受賞者 (昭和五十六年度)</p> <p>脳卒中外科療法の開発と東北での撲滅運動の推進</p> <p>東北大学医学部教授 鈴木 二郎</p> <p>東北の古代史研究にあげた功績</p> <p>岩手大学名誉教授 板橋 源</p> <p>児童文化の育成と郷土史研究に貢献</p> <p>おてんとさんの会 会長 天江 富弥</p> <p>国体ホッケー少年女子の部で四連覇</p> <p>岩手県立沼宮内高等学校 女子ホッケー部</p> <p>ボランティア精神に徹した地域の『福祉村』活動</p> <p>上山市中川福祉村</p>
---	--	--	---

第三十二回受賞者

(昭和五十七年度)

自然災害の対策を研究し、東北開発の基盤整備に貢献

東北大学工学部教授 岩崎 敏夫

詩作を通じて東北文化の向上に寄与

詩人 真壁 仁

ラグビー日本選手権で四連勝

新日本製鉄釜石製鉄所  
ラグビー部

全国中学校軟式野球大会で優勝

秋田市立城東中学校野球部

出版事業を通じて郷土の文化向上に尽力

宝文堂社長 鈴木 武夫

第三十三回受賞者

(昭和五十八年度)

東北地方農山漁村の実態調査に挙げた功績

東北大学農学部長 竹内 利美

重症肝疾患の病態解析と治療の推進

岩手医科大学教授 海藤 勇

洋画家として東北画壇の育成に尽力

洋画家 杉村 惇

全日本合唱コンクールで四年連続金賞

福島県立安積女子高等学校合唱団

独自の保健医療体制で、保健の村づくり

岩手県和賀郡沢内村  
村長 太田 祖電

第三十四回受賞者

(昭和五十九年度)

東北史の研究と普及に貢献

東北大学教授 高橋 富雄

日本海中部地震の学際研究と提言

弘前大学日本海中部地震研究会

染色工芸を通じた地域文化向上に寄与

仙台安魂美術協会会長 宮地 房江

新しい町おこし活動とその成果

岩手県大迫町長 村田 柴太

国体自転車競技総合で五連覇

国体福島県自転車チーム

ロサンゼルス・オリンピック柔道(95キロ超級)で金メダル

早稲田大学副手 斉藤 仁

ロサンゼルス・オリンピックレスリング(フリースタイル90キロ級)で銀メダル

早稲田大学助手 太田 章

ロサンゼルス・オリンピックレスリング(フリースタイル62キロ級)で銀メダル

日本大学生 赤石 光生

ロサンゼルス・オリンピック自転車(スプリント)で銅メダル

日本大学生 坂本 勉

ロサンゼルス・オリンピック女子バレーボールで銅メダル

日立製作所社員 利部 陽子

第三十五回受賞者

(昭和六十年度)

旧石器文化を中心に考古学  
研究で挙げた功績

東北福祉大学教授 芹澤 長介

東北の精神性を表現する  
多彩な芸術活動

造形家 岩間 正男

世界柔道選手権大会78キ以下  
級で二回連続優勝

岩手県警本部  
巡査部長 日蔭 暢年

全国高校総体で四連勝、全国  
選抜高校で五連勝

光星学院高等学校レスリング部

半導体および光通信の研究・  
開発で産業界に貢献

東北大学電気通信研究所長  
①半導体研究所長 西澤 潤一

第二十六回受賞者

(昭和六十一年度)

糖尿病の病態解析と地域医療への貢献

東北大学医学部教授 後藤 由夫

形状記憶合金の基礎および応用研究における功績

東北大学産婦人科研究所長 本間 敏夫

東北書道界の発展向上に寄与

書道芸術院発委委員長 加藤 翠柳

国体陸上競技一〇〇メートル少年の部で三年連続優勝

福島県立会津高等学校三年 五十嵐幸一

ギンザケ養殖の技術確立による複合型養殖業の推進

宮城県志津川町漁業協同組合

一世紀にわたるキリスト教主義教育で人材を育成、社会の発展に寄与

学校法人 東北学院

一世紀にわたるキリスト教主義教育で人間性豊かな女子の育成に寄与

学校法人 宮城学院

第二十七回受賞者

(昭和六十二年度)

民間研究者として農業史の研究に尽力

東北農業技術史調査部長 加藤 治郎

乳がん集団検診体系の確立と推進

東北大学医学部教授 佐藤 寿雄

手づくりの舞台創作活動による地域づくり運動

遠野物語ファンタジー製作委員会

重要無形民俗文化財相馬野馬追の伝承に尽力

相馬野馬追保存会

水稲品種「ササニシキ」の育成と普及指導

元宮城県農業センター長 末永 喜三

第二十八回受賞者

(昭和六十三年度)

伊豆沼・内沼の自然環境保全に尽力

伊豆沼管理協議会

道路粉じん健康影響調査における功績

東北大学医学部教授 瀧島 任

東北の風土に根差した版画を国内外で発表

版画家 斎藤 清

全国音楽コンクール中学校の部で三年連続五回目の優勝

八戸市立根城中学校合唱部

新技術開発で東北の産業振興に貢献

東北電子産業社員 佐伯 昭雄

ソウル・オリンピックのレスリング(フリースタイル52kg級)で優勝

日本体育大学助手 佐藤 満

第二十九回受賞者

(平成元年度)

磁気記録の高密度化の研究における功績

東北工業大学学長 岩崎 俊一

古代東北史の研究、解明で上げた業績

秋田大学教授 新野 直吉

多年にわたり東北の俳壇隆盛に寄与

俳人 佐藤 鬼房

木工芸の里づくりによる山村の振興

宮城県津山町長 佐々木 一郎

心身障害児者の福祉向上に貢献

仙台市精神薄弱児者育成会理事長 安彦ひさ子

第四十回受賞者

(平成二年度)

高度情報ネットワークの研究と  
推進に貢献

東北大学教授 野口 正一

胃癌死亡率の地域差と食生活要  
因の解明に貢献

秋田大学教授 加美山茂利

桜枝岐歌舞伎の保存、伝承に  
おける功績

桜枝岐歌舞伎・千葉之家化駒座

東北柔道界の発展に寄与

東北柔道連盟会長 佐藤儀一郎

長年にわたる肢体不自由児の療  
育事業推進に寄与

宮城県肢体不自由児  
協会会長 高橋 孝文

第四十一回受賞者

(平成三年度)

アモルファス金属の研究と科学  
技術への貢献

東北大学教授 増本 健

彫刻芸術と地方文化の振興に  
寄与した功績

彫刻家 佐藤 忠良

大学野球日本一で東北スポーツ  
界に希望を与えた功績

東北福祉大学硬式野球部

全国高等学校ボクシング競技に  
おいて三冠を達成

岩手県立水沢農業高校二年 八重樫 剛

水稲良食味品種「あきたこまち」  
の育成

秋田県農業試験場

「あきたこまち」育成グループ

要保護児童の養護活動における貢献

社会福祉法人 最上 梅 檀 会

第四十二回受賞者

(平成四年度)

光エレクトロニクス新分野の  
研究開発における功績

東北大学名誉教授  
東北工業大学教授 稲場 文男

新生児未熟児の集中管理を中心  
とした周産期医療への貢献

仙台赤十字病院周産期センター  
新生児未熟児集中治療部門

登米能の伝承・保存を図り地域  
文化の向上、振興に貢献

登米 謡 曲 会

農薬中毒の防止など健康な農家  
生活の確立に貢献

青森県獣医学会長 渡部 忍

民間ボランティアによる多年に  
わたる電話相談活動の功績

社会福祉法人 仙台いのちの電話

アルペールビル・オリンピック  
のノルディック複合団体で優勝

リクルート・スキーツーム 三ヶ田礼一

第四十三回受賞者

(平成五年度)

マグネティックスの新分野の研究  
開発と応用における功績

東北大学名誉教授  
八戸工業大学学長 村上 孝一

セントアイトロセス(強靱鉄製  
造法)による東北産業界への貢献

東北大学名誉教授 本間 正雄

慶長遣欧使節船「サン・ファン・パウ  
テイスタ号」の復元船建造に貢献

村上造船所棟梁 村上定一郎

第4回世界陸上選手権女子マラ  
ソンで日本人初の優勝

陸上選手 浅利 純子

全国高校駅伝で初の男女同時優勝

仙台育英学園高校陸上競技部

一世紀にわたるキリスト教主義教育  
で人間性豊かな女子の育成に寄与

学校法人 尚 綱 女 学 院

一世紀にわたるキリスト教主義教育  
で人間性豊かな女子の育成に寄与

学校法人 仙台白百合学園

第四十四回受賞者

(平成六年度)

トシネル内通信法の発明と実用化に貢献

東北大学教授 千葉 二郎

多年にわたり東北書道界の発展、向上に寄与

書家 田村 桃溪

国宝・重文など仏像彫刻の保存、修理における功績

財団法人美術院  
国宝修理所長 小野寺久幸

東北剣道界の発展、向上に寄与

宮城県剣道連盟  
副会長兼理事長 堀籠 敬蔵

第72回日本ノルディックスキースキークロススキー選手権で4冠を達成

山形県総合運動都市  
公園公社 体育主事 青木富美子

一世紀にわたる個性尊重教育で、有為な人材の育成に寄与

学校法人 南光学園東北高等学校

第四十五回受賞者

(平成七年度)

未開の金属材料「金属間化合物」を実用化に貢献

東北大学名誉教授 和泉 修

大腸がん集団検診方法の確立に寄与

弘前大学教授 吉田 豊  
同 講師 齋藤 博

民間人として郷土史研究に尽くした功績

郷土史家 紫桃 正隆

東北の芸術文化振興に尽力し、後進の育成に貢献

仙台市民ギョーリ  
理事長 宮城 正俊

カヌーの町づくりに取り組み、国体二連覇を達成

福島県カヌー協会

難病患者者に光をともして二十年

社会福祉法人 ありのまま舎

第四十六回受賞者

(平成八年度)

国語学研究ならびに東北の国語教育における功績

東北大学名誉教授 佐藤喜代治

新生児呼吸窮迫症候群の療法を開発した功績

岩手医科大学教授 藤原 哲郎

金工作家として伝統工芸の継承と発展に寄与

人間国宝 高橋 敬典

創造花火の開発と国際交流における功績

全国花火競技大会  
「大曲の花火」実行委員会

腹腔鏡の臨床応用ならびに地域医療への貢献

本荘第一病院院長 小松 寛治

第四十七回受賞者

(平成九年度)

音の知覚と地域音環境改善の研究における功績

東北大学教授 曾根 敏夫

日本画家として東北画壇の発展と後進の育成に尽力

日本画家 能島 康明

世界初の北極海単独歩行横断を成し遂げた功績

冒険家 大場 満郎

耐震ガラスなど新製品開発と観光による地域活性化に貢献

佐原硝子社長 佐原 得司

洋上救急医療体制の確立に貢献

仙塩総合病院理事長 鈴木 寛

第四十八回受賞者

(平成十年度)

電子的神経・筋系制御システムの開発とその臨床応用における功績

東北大学教授 星宮 望

同 井口 泰孝

同 半田 康延

難治性肝疾患並びに肝癌の病態解析と治療の推進に対する功績

岩手医科大学教授 佐藤 俊一

多年にわたり東北川柳界の発展向上に寄与

川柳作家 菅原 一字

空手世界選手権優勝、アジア大会2連覇、国体6連覇、全日本選手権7連覇を達成

空手選手 阿部 良樹

実学教育により120年にわたって人材育成、社会の発展に寄与

学校法人 朴沢学園

第四十九回受賞者

(平成十一年度)

近世武士住宅に関する一連の研究および仙台城復元計画案策定

東北大学助教授 佐藤 巧

東北地方における音楽文化の振興・発展への貢献

(財)仙台フィルハーモニー管弦楽団

全国高校選抜大会、インターハイ、国体で高校バレー3冠を達成

古川商業高校女子バレーボール部

インターハイ卓球男子団体3連覇を含む全国大会8連続優勝

青森山田高校卓球部男子

葉いもち初発生時期の予察システムを確立し、稲の安定生産技術の開発に貢献

東北いもち病発生予察研究グループ

第五十回受賞者

(平成十二年度)

肺移植システムの確立など、一連の呼吸器外科療法開発の功績

東北厚生年金病院院長 藤村 重文

多年にわたり郷土画壇の発展と芸術文化の振興に寄与

洋画家 成瀬 忠忠行

明治の芝居小屋を活用した幅広い芸術文化活動への貢献

秋田県小坂町 康 楽 館

シドニーオリンピック・ソフトボール競技で銀メダル

日立ソフトウェア社員 斎藤 春香

強耐冷性・良食味水稲「ひとめぼれ」の育成

佐々木武彦ほか、ひとめぼれ育成グループ

一世紀にわたり生活に密着した教育と人材の育成に寄与

学校法人 三島学園

第五十一回受賞者

(平成十三年度)

多賀城跡等の発掘調査を通して東北古代史の解明に尽くした功績

宮城県多賀城跡調査研究所

岩手県大迫町での高血圧疫学研究と地域医療貢献

大迫研究グループ

多年にわたり東北日本画界の発展向上に寄与

日本画家 畑井美枝子

東北の伝統芸能を素材にした半世紀にわたる舞台創造の功績

秋田県田沢湖町 劇団わらび座

多年にわたり地域医療に貢献

大泉記念病院看護部長 高橋 孝



第五十二回受賞者

(平成十四年度)

光導波技術の革新

東北学名譽教授、  
東北学未来科学技術共同研究センター客員教授  
川上彰二郎

粒状体力学の研究とその応用の発展  
に関する功績

東北学名譽教授 佐武 正雄

俳句を通じ地域文化の向上に寄与

須賀川市 桔槔吟社

「茂重波」系統種雄牛の造成事業推進  
により肉用牛産業の活性化を実現

種雄牛造成推進グループ  
(代表者) 山岸敏宏(東北学名譽教授)

アテルイ、モレの顕彰活動で地域振  
興に貢献

胆江地域顕彰グループ  
(代表者) 後藤辰水(沼市長)

第五十三回受賞者

(平成十五年度)

中世東北史の研究と普及に貢献

福島学名譽教授 小林 清治

多年にわたり東北文芸界の発展向上  
に寄与

歌人 扇畑 利枝

産学官連携により東北地域における  
産業振興・発展に貢献

前東北インテリゲンシトコムス種推協協議会会長  
石田名香雄

百寿を超えてなお経済人として活躍  
し、地域経済の発展に寄与

仙台商工会議所顧問 今泉 清

自然環境保護活動と環境教育に対す  
る功績

牡蠣の森を築く会代表 畠山 重篤

第五十四回受賞者

(平成十六年度)

がんに対する生体の防御機構の発見  
とその後の免疫学研究における功績

山形大学学長 仙道富士郎

ドキュメンタリー映画の普及振興に功績  
山形国際ドキュメンタリー映画祭実行委員会  
微細加工技術による地域産業等への貢献

東北学未来科学技術共同研究センター教授  
江刺 正喜

河川軸連携による県境を越えた  
地域づくりに寄与

北上川流域市町村連携協議会  
ドルトムント大会で優勝

プリンセスホテル 荒川 静香

アテネオリンピックレスリング  
女子63キロ級で優勝

中京女子大学二年 伊調 馨

アテネオリンピックレスリング  
女子48キロ級で準優勝

中京女子大学三年 伊調 千春

アテネオリンピック柔道  
男子90キロ級で準優勝

明治大学四年 泉 浩

アテネオリンピック水泳競技で  
二種目に三位入賞

日本大学二年 森田 智己

第五十五回受賞者

(平成十七年度)

津波総合防災の先駆的展開と貢献

日本大学大学院薬科学研究所教授  
東北学名譽教授

全日本合唱コンクールで  
三年連続日本一

郡山市郡山第二中学校合唱部

全国大学対抗戦で男女合わせて  
二十回優勝

東北福祉大学体育会ゴルフ部

冬の光の祭典を企画・運営し、  
地域へ貢献

SEND AI光のページェント実行委員会

一世紀にわたる個性尊重教育で、  
有為な人材の育成に寄与

学校法人 仙台育英学園

<p>第五十六回受賞者 (平成十八年度)</p> <p>赤外線レーザー医療装置の根幹技術の先駆的研究とその開発・実用化 東北大学名誉教授・ 仙台電設工業専門学校校長 宮城 光信</p> <p>第七十七回都市対抗野球大会で初優勝、東北勢初の快挙 TDK硬式野球部</p> <p>「あ・ら・伊達な道の駅」を経営し、地域住民にやりがいと活力を与えた功績 株式会社 池月道の駅</p> <p>三十年にわたり、仙台圏の地域医療支援に貢献 財団法人 仙台市医療センター仙台オープン病院</p>	<p>第五十七回受賞者 (平成十九年度)</p> <p>単結晶材料の研究開発で東北の企業を育成した功績 東北大学多元物質科学 研究所名誉教授 福田 承生</p> <p>東北学の構築と実践による東北文化への功績 東北芸術工科大学院長 赤坂 憲雄</p> <p>多年にわたり重度身体障害者の就労と社会復帰に貢献 錦戸洋服店代表取締役社長 錦戸光一郎</p> <p>巨大ねぶたを復元し、東北の夏祭り に育て上げた功績 五所川原立佞武多運営委員会</p>
<p>第五十八回受賞者 (平成二十年)</p> <p>バイオ技術に新しい道をひらく糖鎖工学の研究 弘前大学学長 遠藤 正彦</p> <p>多年にわたり工芸界の発展と芸術文化の向上に寄与 陶芸家・宮城県芸術協会顧問 高倉 健</p> <p>多年にわたり地域医療に貢献 医師・石巻市常備診療所所長 富永 忠弘</p> <p>写真文化の普及発展に尽くした功績 財団法人 土門拳記念館</p>	<p>第五十九回受賞者 (平成二十一年度)</p> <p>液晶の基礎研究および高性能液晶ディスプレイの開発 東北大学大学院 工学研究科教授 内田 龍男</p> <p>日本刀の制作を通じた日本人の心と文化の伝承 刀工 上林 恒平</p> <p>もち性ヒエの開発とそその利用による地域振興 岩手大学農学部附属農業センター サイエンス教育研究センター教授 星野 次注</p> <p>「最上川やまがた雛の道」を提唱し、春の観光を大きく発展させた功績 おひな様研究家 安部 英子</p>

第六十回受賞者

(平成二十二年)

資源の安定確保へ 秋田大学の挑戦  
秋田大学学長 吉村 昇  
多年にわたり陶芸界の発展と芸術文化の向上に寄与  
陶芸家 針生 乾馬

バンクーバー冬季五輪 スピードスケート男子五〇〇メートルメダル  
日本電産シキョー 加藤 条治

光エレクトロニクス半導体材料・素子・プロセスに関する研究  
東北大学学際科学国際高等研究センター客員教授 八百 隆文

将棋を通して伝統文化の普及と向上に寄与するとともに社会貢献に尽力  
ナカト代表取締役 中戸 俊洋

誰もが参加でき、気軽に楽しめる無料の市民音楽祭の定着を通じた地域活性化  
定禪寺トリートメントフェスティバル実行委員会

第六十一回受賞者

(平成二十三年)

家畜卵巣卵の高度利用技術の開発  
東北大学学術研究科教授 佐藤 英明  
全国俳句山寺大会を半世紀にわたって開催した功績  
山寺文化保存会

東北の地域づくり活動を先導し地域振興に貢献  
民俗研究 地域づくりプロフェッショナル 結城登美雄

地域伝統の食文化に学び、食育推進を実践した功績  
茨城大社登壇成徳高等学校調理科エンキッチン

第六十二回受賞者

(平成二十四年)

大脳の前頭野を活性化させる学習療法を開発、脳機能向上と認知症ケアに貢献した功績  
東北大学加齢学研究所教授 川島 隆太  
多年にわたり音楽界の発展と芸術文化の向上に寄与した功績  
音楽家 片岡 良和  
芸術を取り入れた稲作体験  
「田んぼアート」で地域振興に貢献  
青森県田舎館村むらおこし推進協議会

ロンドン五輪レスリング女子四八キロ級で金メダル  
自衛隊 小原日登美

ロンドン五輪アーチェリー男子個人で銀メダル  
近畿大学職員 古川 高晴

ロンドン五輪卓球女子団体で銀メダル  
ANA 福原 愛

ロンドン五輪卓球女子団体で銀メダル  
ミキハウス 平野早矢香

ロンドン五輪フェンシング男子フルール団体で銀メダル  
ネクサス 千田 健太

ロンドン五輪フェンシング男子フルール団体で銀メダル  
ネクサス 淡路 卓

ロンドン五輪バレーボール女子で銅メダル  
日立 江畑 幸子

ロンドン五輪バレーボール女子で銅メダル  
JT 大友 愛

第六十三回受賞者

(平成二十五年)

地域がん登録によりがん対策の向上に寄与した功績  
宮城県新生物レジストリー委員会  
多年にわたり東北日本画壇の発展向上に寄与した功績  
日本画家 能島 和明

多年にわたり東北能楽界の発展向上に貢献  
能楽師 喜多瀬薫分 佐々木宗生

日本車椅子バスケットボール選手権大会で五連覇  
宮城MAX

高精度画像認識の研究とその応用展開ならびに情報技術を活用した震災犠牲者の身元確認における功績  
東北大学大学院 情報科学研究科教授 青木 孝文

	年度		年度
本間 敏夫	61	本宮小学校（福島県）	38
本間 正雄	平5	森口 多里	39
堀籠 敬蔵	6	百足 泰守	41
星宮 望	10	毛利総七郎	42
朴沢 学園	ク	毛 越 寺	49
星野 次汪	平21	最上梅檀会	平3
		森田 智己	16

【ま】

真壁 仁	昭57
増本 健	平3

【み】

宮城県立農業試験場古川分場	昭32
三原 良吉	35
宮城県小牛田農林高校剣道部	36
宮城県鼎が浦高等学校生徒会 体育部フェンシング班	38
三宅 義信	39
宮城県対がん協会	41
宮城県更生育成医療整形外科指定医協議会	42
三宅 義行	43
宮川 善造	53
宮地 房江	59
宮城県志津川漁業協同組合	61
宮城 学院	ク
三ヶ田礼一	平4
宮城 正俊	7
三島 学園	12
宮城県多賀城跡調査研究所	13
宮城 光信	18
宮城県新生物レジストリー委員会	25
宮城MAX	ク
宮城県芸術協会	26

【む】

村田 柴太	昭59
村上 孝一	平5
村上定一郎	ク

【め】

明成高等学校調理科リエゾンキッチン	平23
-------------------	-----

【も】

森 嘉兵衛	昭36
-------	-----

【や】

山形県婦人連盟	昭31
山口弥一郎	33
谷村株式会社新興製作所	35
山本美喜雄	38
柳田 英明	47
山形県立山形西高等学校合唱団	48
山形交響楽団	53
山形大学北村昌美教授研究グループ	55
八重樫 剛	平3
山形国際ドキュメンタリー 映画祭実行委員会	16
八百 隆文	22
山寺文化保存会	23

【ゆ】

結城哀草果	昭34
結城登美雄	平23

【よ】

吉岡覚太郎	昭36
吉池慶太郎	40
横山 満子	41
吉田 孤羊	42
吉岡 邦二	51
吉田 豊	平7
吉村 昇	22

【わ】

渡辺 慈朗	昭38
渡辺 穎二	39
若林 彊	40
和田 正美	45
渡辺 セツ	49
渡部 忍	平4
わらび座（秋田県田沢湖町）	13

	年度
富田 兼康	昭36
東北地方建設局岩手工事事務所	44
富岡 重憲	45
東奥義塾高等学校スキー部	53
東北大学漕艇部	55
東北学院	61
遠野物語ファンタジー制作委員会	62
東北福祉大学硬式野球部	平3
登米謡曲会	4
東北いもち病発生予察研究グループ	11
東北福祉大学体育会ゴルフ部	17
富永 忠弘	20
土門拳記念館	々

### 【な】

永井 健三	昭28
中川善之助	35
夏井 昇吉	37
南部 松夫	55
永野 孫柳	々
南光学園東北高等学校	平6
成瀬 忠行	12
中戸 俊洋	22
中沢 正隆	26

### 【に】

二村 忠元	昭30
日本化学研究会	31
西川町立大井沢自然博物館	33
仁科 利英	々
乳井 義耀	40
西山 正治	47
西澤 潤一	60
新野 直吉	平元
錦戸光一郎	19
新田 嘉一	26

### 【ぬ】

額賀 誠	昭31
------	-----

### 【の】

野田起一郎	昭44
農林省果樹試験場盛岡支場リンゴふじ育成グループ	49
農林省東北農業試験場栽培第一育成グループ	50
野口 正一	平2

	年度
能島 康明	9
能島 和明	25

### 【は】

畑中 正吉	昭48
橋本八百二	50
針生 嘉孝	52
八戸市立根城中学校合唱部	63
半田 康延	平10
畑井美枝子	13
島山 重篤	15
針生 乾馬	22
羽生 結弦	26

### 【ひ】

平田 森三	昭33
平山 諦	47
弘前大学日本海中部地震研究会	59
日蔭 暢年	60
桧枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座	平2
平野早矢香	24

### 【ふ】

富士製鉄釜石製鉄所工務部並びに 東北大学工学部成瀬研究室	昭28
藤村 徳三	33
藤岡 一男	40
福井 文彦	42
富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部	43
藤島清太郎	49
深道 和明	52
福島県立安積女子高等学校合唱団	58
福島県カヌー協会	平7
藤原 哲郎	8
古川商業高校女子バレーボール部	11
藤村 重文	12
福田 承生	19
古川 高晴	24
福原 愛	々

### 【ほ】

本間美術館	昭36
堀田 秀之	39
本田 安次	46
法華三郎信房	53

	年度
<b>【し】</b>	
渡川伝次郎	昭30
渋谷 洪衛	32
庄司吉之助	37
荘司 福	〃
下平 三郎	40
鳥影せい子	47
司東 真雄	53
渋谷栄太郎	54
新日本製鉄釜石製鉄所ラグビー部	57
尚綱女学院	平5
紫桃 正隆	7
種雄牛造成推進グループ（宮城県）	14
首藤 伸夫	17
定禪寺ストリートジャスフェスティバル実行委員会	22

<b>【す】</b>	
鈴木 彌美	昭30
杉山 尚	47
杉本 行雄	48
鈴木千賀志	49
菅原弥三郎	51
須藤 克三	54
鈴木 二郎	56
鈴木 武夫	57
杉村 惇	58
末永 喜三	62
鈴木 寛	平9
菅原 一宇	10

<b>【せ】</b>	
仙台管区气象台	昭27
石油資源開発株式会社秋田鉱業所	35
仙台市立五橋中学校	45
仙台市立病院	47
芹澤 長介	60
仙台いのちの電話	平4
仙台赤十字病院周産期センター	
新生児未熟児集中治療部門	〃
仙台育英学園高校陸上競技部	5
仙台白百合学園	〃
全国花火競技大会	
「大曲の花火」実行委員会	8
仙台フィルハーモニー管弦楽団	11
仙道富士郎	16
SENDAI 光のページェント実行委員会	17
仙台育英学園	〃

仙台市医療センター仙台オープン病院 平18

<b>【そ】</b>	
相馬野馬追保存会	昭62
曾根 敏夫	平9

<b>【た】</b>	
田口 啓作	昭27
只見川調査所関係所員	〃
高橋喜三郎	28
田中 稔	〃
武田忠一郎	29
館山 甲午	38
高橋とも子	44
竹本 常松	50
高橋 喜平	55
竹内 利美	58
高橋 富雄	59
瀧島 任	63
高橋 孝文	平2
田村 桃溪	6
高橋 敬典	8
高橋 孝	13
胆江地域アテルイ、モレ顕彰グループ	14
高倉 健	20

<b>【ち】</b>	
千葉あやの	昭37
致道博物館	46
千葉 仁	48
千葉 二郎	平6
千田 健太	24

<b>【つ】</b>	
円谷 幸吉	昭39

<b>【て】</b>	
T D K 硬式野球部	平18

<b>【と】</b>	
東北高校漕艇部	昭26
富樫兼治郎	29
土居 光知	30

	年度		年度
大迫研究グループ（代表今井潤）	13	小和田敏子	45
扇畑 利枝	平15	国体福島県自転車チーム	昭59
小原日登美	24	光星学院高等学校レスリング部	60
大友 愛	〃	後藤 由夫	61
		小松 寛治	平 8
		康楽館（秋田県小坂町）	12
		小林 清治	15
		郡山市立郡山第二中学校合唱部	17
		五所川原立佞武多運営委員会	19
<b>【か】</b>		<b>【さ】</b>	
海鋒 義美	昭26	佐藤 博治	昭27
片山 知又	31	作左部 忠	28
鎌田 徳治	32	佐野 保	33
加藤陸奥雄	36	酒井 馨	35
勝平 得之	〃	佐藤利三郎	37
神永 昭夫	39	佐々木栄一	38
菅野 廉	46	酒井軍治郎	41
河野 満	52	笹原 正三	〃
上山市中川福祉村	56	佐々木寅次郎	44
海藤 勇	58	斎藤莊次郎	45
利部 陽子	59	佐藤 哲夫	47
加藤 翠柳	61	澤井 七郎	51
加藤 治郎	62	斎藤 英夫	52
加美山茂利	平 2	佐々 久	54
川上彰二郎	14	佐藤 丑蔵	〃
上林 恒平	21	斉藤 仁	59
加藤 条治	22	坂本 勉	〃
川島 隆太	24	佐藤 壽雄	62
片岡 良和	〃	斎藤 清	63
		佐伯 昭雄	〃
		佐藤 満	〃
		佐藤 鬼房	平元
		佐々木一郎	〃
		佐藤儀一郎	2
		佐藤 忠良	3
		斎藤 博	7
		佐藤喜代治	8
		佐原 得司	9
		佐藤 俊一	10
		佐藤 巧	11
		斎藤 春香	12
		佐々木武彦ほか、ひとめぼれ育成グループ	〃
		佐武 正雄	14
		佐藤 英明	23
		佐々木宗生	25
<b>【き】</b>			
菊池 喜充	昭32		
木村 基弥	38		
木下 彰	52		
桔 棹 吟 社（須賀川市）	平14		
北上川流域市町村連携協議会	16		
<b>【く】</b>			
九嶋 勝司	昭44		
黒川 能座	46		
黒森歌舞伎	47		
工藤 章	51		
<b>【こ】</b>			
近藤 正二	昭27		
国分 謙吉	31		
後藤 桃水	34		
小坂鉦業所	36		
後藤 秀弘	37		

# 河北文化賞受賞者 =50音別索引=

<p><b>【あ】</b></p> <p>阿部みどり女 昭30</p> <p>秋田市竿灯会 34</p> <p>秋田県農村医学会 39</p> <p>秋田大学八郎潟研究委員会 43</p> <p>秋田県立秋田工業高等学校ラグビー部 44</p> <p>青森県水産増殖センター 46</p> <p>有井 凌雲 51</p> <p>秋田県立能代工業高等学校バスケットボールチーム ♪</p> <p>荒木田裕子 ♪</p> <p>天江 富弥 56</p> <p>秋田市立城東中学校野球部 57</p> <p>赤石 光生 59</p> <p>安彦ひさ子 平元</p> <p>秋田県農試「あきたこまち」育成グループ 3</p> <p>浅利 純子 5</p> <p>青木富美子 6</p> <p>ありのまま舎 7</p> <p>阿部 良樹 10</p> <p>青森山田高校卓球部男子 11</p> <p>荒川 静香 16</p> <p>赤坂 憲雄 19</p> <p>安部 英子 21</p> <p>淡路 卓 24</p> <p>青木 孝文 25</p> <p><b>【い】</b></p> <p>伊東 信雄 昭31</p> <p>今井 史郎 32</p> <p>今井 丈夫 34</p> <p>伊藤 定雄 38</p> <p>一ノ関史郎 39</p> <p>岩崎 敏夫 40</p> <p>池田 徹郎 42</p> <p>猪股 一二 46</p> <p>今泉 亀撤 48</p> <p>岩手県住田町農業総合指導協議会 50</p> <p>岩手県志和農業協同組合 54</p> <p>板橋 源 56</p> <p>岩手県立沼宮内高等学校女子ホッケー部 ♪</p> <p>岩崎 敏夫 57</p> <p>岩間 正男 60</p> <p>五十嵐幸一 61</p> <p>伊豆沼管理協議会 63</p> <p>岩崎 俊一 平元</p> <p>稲場 文男 4</p>	<p>和泉 修 平 7</p> <p>井口 泰孝 10</p> <p>石田名香雄 15</p> <p>今泉 清 ♪</p> <p>伊調 馨 16</p> <p>伊調 千春 ♪</p> <p>泉 浩 ♪</p> <p>池月道の駅 18</p> <p>田舎館村むらおこし推進協議会 24</p> <p>石田 清仁 26</p> <p><b>【う】</b></p> <p>宇田新太郎 昭26</p> <p>内田 武志 45</p> <p>宇野 松仙 51</p> <p>内田 龍男 平21</p> <p><b>【え】</b></p> <p>遠藤 幸雄 昭39</p> <p>FMC混声合唱団 43</p> <p>遠藤 忠雄 50</p> <p>遠藤 純男 51</p> <p>江刺 正喜 平16</p> <p>遠藤 正彦 20</p> <p>江畑 幸子 24</p> <p><b>【お】</b></p> <p>小倉 強 昭26</p> <p>太田麻之助 ♪</p> <p>大原嘗一郎 29</p> <p>太田口政治 ♪</p> <p>小島 武雄 ♪</p> <p>大坂 鷹司 31</p> <p>太田孝太郎 34</p> <p>小野 喬 39</p> <p>大内 仁 ♪</p> <p>奥津 春生 43</p> <p>大山 功 52</p> <p>扇畑 忠雄 54</p> <p>太田 祖電 58</p> <p>太田 章 59</p> <p>小野寺久幸 平 6</p> <p>大場 満郎 9</p>
---	--



部門	年度	氏名	
産業	35	酒井 馨	
	〃	石油資源開発(株)秋田鉱業所	
	〃	谷村(株)新興製作所	
	36	吉岡 覚太郎	
	〃	小坂 鉱業所	
	39	堀田 秀之	
	〃	渡辺 穎二	
	41	百足 泰守	
	45	斎藤 莊次郎	
	46	青森県水産増殖センター	
	48	畑中正 吉	
	〃	杉本行 雄	
	49	農林省果樹試験場盛岡支場 リングふじ育成グループ	
	50	遠藤 忠雄	
	〃	岩手県住田町農業総合指導協議会	
	〃	農林省東北農業試験場栽培 第一部育成グループ	
	52	木下 彰	
	54	岩手県志和農業協同組合	
	61	志津川町漁業協同組合	
	62	末永 喜三	
	63	佐伯 昭雄	
	平元	佐々木 一郎	
	3	秋田県農業試験場「あきた こまち」育成グループ	
	4	渡部 忍	
	5	本間 正雄	
	〃	村上 定一郎	
	8	全国花火競技大会 「大曲の花火」実行委員会	
	9	佐原 得司	
	11	東北いもち病発生予察研究グループ	
	12	佐々木武彦ほか、ひとめぼれ 育成グループ	
	14	種雄牛造成推進グループ(宮城県)	
	15	石田 名香雄	
	〃	今泉 清	
	16	江刺 正喜	
	18	池月道の 駅	
	21	星野 次汪	
	22	八百 隆文	
	社会	昭30	鈴木 弼美
	活動	〃	大坂 鷹司
	〃	〃	山形県婦人連盟
〃	33	佐野 保	
〃	35	中川 善之助	
〃	38	本宮小学校(福島県)	
〃	40	吉池 慶太郎	

部門	年度	氏名
社会 活動	42	宮城県更正育成医療整形外科 指定医協議会
	〃	44 佐々木 寅次郎
	〃	47 仙台市立病院
	〃	49 渡辺 セツ
	〃	51 澤井 七郎
	〃	56 上山市中川福祉村
	〃	57 鈴木 武夫
	〃	58 太田 祖電
	〃	59 村田 柴太
	〃	61 学校法人 東北学院
	〃	62 学校法人 宮城学院
	〃	〃 相馬野馬追保存会
	〃	平元 安彦 ひさ子
	〃	2 高橋 孝文
	〃	3 社会福祉法人 最上梅檀会
	〃	4 仙台いのちの電話
	〃	5 学校法人 尚綱女学院
	〃	〃 学校法人 仙台白百合学園
	〃	6 学校法人 南光学園東北高等学校
	〃	7 ありのまま舎
	〃	8 小松 寛治
	〃	9 鈴木 寛
	〃	10 学校法人 朴沢学園
	〃	12 学校法人 三島学園
	〃	13 高橋 孝
	〃	14 胆江地域アテルイ、モレ顕彰グループ
〃	15 畠山 重篤	
〃	16 北上川流域市町村連携協議会	
〃	17 SENDAI 光のページェント 実行委員会	
〃	〃 学校法人 仙台育英学園	
〃	18 仙台市医療センター仙台オープン病院	
〃	19 錦戸 光一郎	
〃	〃 五所川原立佞武多運営委員会	
〃	20 富永 忠弘	
〃	21 安部 英子	
〃	22 吉村 昇	
〃	〃 中戸 俊洋	
〃	〃 定禪寺ストリートジャズフェスティバル 実行委員会	
〃	23 結城 登美雄	
〃	〃 明成高等学校調理科リエゾンキッチン	
〃	24 田舎館村むらおこし推進協議会	
〃	25 青木 孝文	
〃	26 新田 嘉一	

部門	年度	氏名
体育	28	作左部 忠
〃	〃	高橋 喜三郎
〃	29	太田口 政 治
〃	31	額賀 誠
〃	32	鎌田 徳 治
〃	36	小牛田農林高校剣道部
〃	37	夏井 昇 吉
〃	38	鼎が浦高校フエンシング班
〃	39	小野 喬
〃	〃	遠藤 幸雄
〃	〃	三宅 義信
〃	〃	円谷 幸吉
〃	〃	神永 昭夫
〃	〃	一ノ関 史郎
〃	〃	大内 仁
〃	40	乳井 義耀
〃	41	笹原 正三
〃	〃	横山 満子
〃	43	富士製鉄釜石製鉄所ラグビー部
〃	〃	三宅 義行
〃	44	秋田工業高校ラグビー部
〃	〃	高橋 とも子
〃	45	小和田 敏子
〃	46	猪股 一二
〃	47	柳田 英明
〃	〃	佐藤 哲夫
〃	〃	島影 せい子
〃	48	千葉 仁
〃	51	秋田県立能代工業高校 バスケットボールチーム
〃	〃	荒木田 裕子
〃	〃	遠藤 純男
〃	〃	菅原 弥三郎
〃	〃	工藤 章
〃	52	河野 満
〃	53	東奥義塾高校スキー部
〃	55	東北大学漕艇部
〃	56	岩手県立沼宮内高校女子ホッケー部
〃	57	新日鉄釜石ラグビー部
〃	57	秋田市立城東中学校野球部
〃	59	国体福島県自転車チーム
〃	〃	斉藤 仁
〃	〃	太田 章
〃	〃	赤石 光生
〃	〃	坂本 勉
〃	〃	利部 陽子
〃	60	日蔭 暢年
〃	〃	光星学院高校レスリング部
〃	61	五十嵐 幸一

部門	年度	氏名
体育	63	佐藤 満
〃	平2	佐藤 儀一郎
〃	3	東北福祉大学硬式野球部
〃	〃	八重樫 剛
〃	4	三ヶ田 礼一
〃	5	浅利 純子
〃	〃	仙台育英学園高校陸上競技部
〃	6	堀籠 敬藏
〃	〃	青木 富美子
〃	7	福島県カヌー協会
〃	9	大場 満郎
〃	10	阿部 良樹
〃	11	古川商業高校女子バレーボール部
〃	〃	青森山田高校卓球部男子
〃	12	斎藤 春香
〃	16	荒川 静香
〃	〃	伊調 馨
〃	〃	伊調 千春
〃	〃	泉 浩
〃	〃	森田 智己
〃	17	東北福祉大学体育会ゴルフ部
〃	18	T D K 硬式野球部
〃	22	加藤 条治
〃	24	小原 日登美
〃	〃	古川 高晴
〃	〃	福原 愛
〃	〃	平野 早矢香
〃	〃	千田 健太
〃	〃	淡路 卓
〃	〃	江畑 幸子
〃	〃	大友 愛
〃	25	宮城 M A X
〃	26	羽生 結弦
産業	昭26	太田 麻之助
〃	27	仙台管区気象台
〃	〃	只見川調査所関係所員
〃	28	田中 稔
〃	〃	富士製鉄釜石製鉄所工務部並びに 東北大学工学部成瀬研究室
〃	29	小島 武雄
〃	〃	富樫 兼治郎
〃	30	渋川 伝次郎
〃	31	片山 知又
〃	〃	国分 謙吉
〃	32	菊池 喜充
〃	〃	宮城県立農業試験場古川分場
〃	〃	渋谷 洪衛
〃	33	藤村 徳三
〃	〃	平田森三・仁科利英

部門	年度	氏名
学術	10	半田康延
〃	〃	佐藤俊一
〃	11	佐藤巧
〃	12	藤村重文
〃	13	宮城県多賀城跡調査研究所
〃	〃	大迫研究グループ(代表今井潤)
〃	14	川上彰二郎
〃	〃	佐武正雄
〃	15	小林清治
〃	16	仙道富士郎
〃	17	首藤伸夫
〃	18	宮城光信
〃	19	福田承生
〃	〃	赤坂憲雄
〃	20	遠藤正彦
〃	21	内田龍男
〃	23	佐藤英明
〃	24	川島隆太
〃	25	宮城県新生物レジストリー委員会
〃	26	石田清仁
〃	〃	中沢正隆
芸術	昭29	武田忠一郎
〃	30	阿部みどり女
〃	34	後藤桃水会
〃	〃	秋田市竿灯会
〃	〃	結城哀草果
〃	35	三原良吉
〃	36	勝平得之福
〃	37	荘司福
〃	〃	千葉あやの
〃	38	館山甲午
〃	39	森口多里
〃	40	岩崎敏夫
〃	42	吉田孤羊
〃	〃	福井文彦
〃	43	FMC混声合唱団
〃	45	内田武志
〃	〃	仙台市立五橋中学校
〃	46	菅野廉
〃	〃	黒川能座
〃	〃	致道博物館
〃	〃	本田安次
〃	47	黒森歌舞伎
〃	48	山形県立山形西高校合唱団
〃	〃	毛越寺
〃	49	藤島清太郎
〃	50	橋本八百二
〃	51	宇野松仙
〃	〃	有井凌雲

部門	年度	氏名
芸術	52	針生嘉孝
〃	〃	大山功
〃	53	山形交響楽団
〃	〃	法華三郎信房
〃	54	扇畑忠雄
〃	〃	渋谷栄太郎
〃	〃	須藤克三
〃	〃	佐藤丑蔵
〃	55	永野孫柳
〃	57	真壁仁
〃	58	福島県立安積女子高校合唱団
〃	〃	杉村惇
〃	59	宮地房江
〃	60	岩間正男
〃	61	加藤翠柳
〃	62	遠野物語ファンタジー制作委員会
〃	63	斎藤清
〃	〃	八戸市立根城中学校合唱部
〃	平元	佐藤鬼房
〃	2	桜枝岐歌舞伎・千葉之家花駒座
〃	3	佐藤忠良
〃	4	登米謡曲会
〃	6	田村桃溪
〃	〃	小野寺久幸
〃	7	宮城正俊
〃	8	高橋敬典
〃	9	能島康明
〃	10	菅原一宇
〃	11	仙台フィルハーモニー管弦楽団
〃	12	成瀬忠行
〃	〃	康楽館(秋田県小坂町)
〃	13	畑井美枝子
〃	〃	劇団わらび座(秋田県田沢湖町)
〃	14	桔槔吟社(須賀川市)
〃	15	扇畑利枝
〃	16	山形国際ドキュメンタリー 映画祭実行委員会
〃	17	郡山市立郡山第二中学校合唱部
〃	20	高倉健
〃	〃	土門拳記念館
〃	21	上林恒平
〃	22	針生乾馬
〃	23	山寺文化保存会
〃	24	片岡良和
〃	25	能島和明
〃	〃	佐々木宗生
〃	26	宮城県芸術協会
体育	昭26	東北高校漕艇部
〃	27	佐藤博治

# 河北文化賞受賞者 =部門別索引=

部門	年度	氏名	部門	年度	氏名
学術	昭26	海鋒義美	学術	49	鈴木千賀志
〃	〃	小倉強	〃	50	竹本常松
〃	〃	宇田新太郎	〃	51	吉岡邦二
〃	27	近藤正二	〃	52	斎藤英夫
〃	〃	田口啓作	〃	〃	深道和明
〃	28	永井健三	〃	53	宮川善造
〃	29	大原嘗一郎	〃	〃	司東真雄
〃	30	二村忠元	〃	54	佐々久夫
〃	〃	土居光知	〃	55	南部松夫
〃	31	伊東信雄	〃	〃	高橋喜平
〃	〃	日本化学研究会	〃	〃	山形大学農学部北村昌美教授
〃	32	今井史郎	〃	〃	研究グループ
〃	33	西川町立大井沢自然博物館	〃	56	鈴木二郎
〃	〃	山口弥一郎	〃	〃	板橋源弥
〃	34	今井丈夫	〃	〃	天江富敏
〃	〃	太田孝太郎	〃	57	岩崎夫美
〃	36	本間美術館	〃	58	竹内利美
〃	〃	富田兼康	〃	〃	海藤勇雄
〃	〃	加藤陸奥雄	〃	59	高橋富雄
〃	〃	森嘉兵衛	〃	〃	弘前大学日本海中部地震研究会
〃	37	後藤秀弘	〃	60	芹澤長介
〃	〃	佐藤利三郎	〃	〃	西澤潤一
〃	〃	庄司吉之助	〃	61	後藤由夫
〃	38	木村甚弥雄	〃	〃	本間敏夫
〃	〃	山本美喜雄	〃	62	加藤治郎
〃	〃	渡辺慈朗	〃	〃	佐藤寿雄
〃	〃	佐々木栄一	〃	63	伊豆沼管理協議会
〃	〃	伊藤定雄	〃	〃	瀧島任一
〃	39	秋田県農村医学会	〃	平元	岩崎俊一
〃	40	藤岡一男	〃	〃	新野直吉
〃	〃	下平三郎	〃	2	野口正一
〃	〃	若林三彊	〃	〃	加美山利
〃	41	酒井軍治郎	〃	3	増本健
〃	〃	宮城県対がん協会	〃	4	稲場文男
〃	42	池田徹郎	〃	〃	仙台赤十字病院周産期センター
〃	〃	毛利総七郎	〃	〃	新生児未熟児集中治療部門
〃	43	秋田大学八郎潟研究委員会	〃	5	村上孝一
〃	〃	奥津春生	〃	6	千葉二郎
〃	44	九嶋勝司	〃	7	和泉修
〃	〃	野田起一郎	〃	〃	吉田豊
〃	〃	東北地方建設局岩手工事事務所	〃	〃	斎藤博
〃	45	和田正美	〃	〃	紫桃正隆
〃	〃	富岡重憲	〃	8	佐藤喜代治
〃	47	杉山尚	〃	〃	藤原哲郎
〃	〃	平山諦	〃	9	曾根敏夫
〃	〃	西山正治	〃	10	星宮望
〃	48	今泉亀撤	〃	〃	井口泰孝

# 本団役員、評議員

二〇一五年  
一月一日現在

理事長 一力 雅彦 河北新報社代表取締役社長  
常務理事 鈴木 紳一 河北新報社営業局次長  
理事 里見 進 東北大学総長  
同 伊藤 敬幹 仙台市副市長  
同 久道 茂 宮城県対がん協会会長  
同 松木 茂 東日本旅客鉄道仙台支社執行役員  
同 松澤 伸介 東日本興業取締役会長  
同 氏家 悟 東北放送取締役営業局長  
監事 三井 精一 仙台銀行相談役  
同 木村 定 河北折込センター代表取締役社長

評議員 斎藤 茂雄 東北生産性本部会長  
同 濱田 直嗣 宮城県慶長使節船ミュージアム館長  
同 加藤 正人 東北福祉大学客員教授  
同 有川 幾夫 宮城県美術館長  
同 渡辺 雄彦 宮城教育大学名誉教授  
同 青沼 一民 仙台大学教授 教職支援センター長  
同 火煙 雅之 東北放送文化事業団事務局長  
同 宍戸 實 河北新報社専務取締役  
同 西川 善久 三陸河北新報社取締役